

平成23年11月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	45,290,724 万円	100.0%	100.1% (100.8%)	42,920,714 万円	97.7% (98.6%)
食 料 品	37,075,222 万円	81.9% (82.5%)	100.2% (100.6%)	35,101,805 万円	97.5% (98.1%)
農 産	5,100,059 万円	11.3% (12.4%)	94.8% (98.9%)	4,801,488 万円	92.4% (96.5%)
水 産	3,719,264 万円	8.2% (8.0%)	99.2% (99.8%)	3,514,142 万円	96.5% (97.3%)
畜 産	4,490,121 万円	9.9% (9.6%)	100.1% (99.4%)	4,251,121 万円	97.5% (97.0%)
惣 菜	3,873,816 万円	8.6% (8.7%)	101.9% (103.2%)	3,659,281 万円	99.1% (100.4%)
日配食品	8,364,430 万円	18.5% (18.8%)	100.5% (100.4%)	7,923,110 万円	97.8% (97.5%)
加工食品	11,527,532 万円	25.4% (25.0%)	102.4% (101.5%)	10,952,663 万円	99.7% (99.3%)
生活関連	3,404,080 万円	7.5% (7.3%)	96.8% (102.5%)	3,223,688 万円	95.0% (98.7%)
衣 料 品	1,906,247 万円	4.2% (4.0%)	95.1% (99.6%)	1,840,238 万円	94.6% (100.1%)
そ の 他	2,905,175 万円	6.4% (6.2%)	106.4% (101.5%)	2,754,983 万円	105.1% (104.2%)

② 数 値

全店総売上高	45,290,724 万円	店 舗 数	4,139 店舗
総売場面積	7,888,384.3 m ²	総従業員数	222,750 人

店舗平均月商	10,942.4 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,797 円 (98.2%)
月間m ² 売上(前月)	5.7 万円 (5.9 万円)	平均店舗面積	1,905.9 m ²
月間坪売上(前月)	19.0 万円 (19.6 万円)	パート比率(前月)	76.4% (75.0%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 11月に入っても気温が下がらず、中旬以降まで鍋関連・ホットメニュー商品が苦戦したことが売上にも影響した
- ・ 生鮮食品を中心に季節商品の相場高や野菜の相場安による点数、1品単価の下落により売上が不振だった
- ・ 食品は、震災後の特徴として「すぐに食べられる、火を使わずに済む」簡便商品が引き続き好調。暖かい気候の影響で、鍋関連商品は全体的に厳しい状況だった

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜は全般に昨年の相場高騰の反動による大幅な相場安の影響を受け、前年を下回った。平均気温が高かったこともありサラダ商材は伸びた
- ・ 相場安による単価ダウンで、じゃがいも、玉ねぎ、にんじん等の主力根菜や大根、キャベツ、長ねぎ、はくさい等の鍋物商材が不振だった
- ・ 主力のみかんは、玉太りによる大玉サイズ中心で不振。リンゴは出荷量が不足して訴求が難しく苦戦した

○ 水産

- ・ 気温が中々下がらなかった影響もあり、鍋物材料の動きが悪い。主力の甘口たら、まだら、助宗たらも寒くなった月後半になって売上が好調だった
- ・ 9月から引き続き、鮭の不漁による、主力となる生すじこ、秋鮭の品薄が大きく影響して不振だったが、反面、さんま、真がれい、ぶりが豊漁で若干底上げした
- ・ 相場高の影響で主力のまぐろが低調だった

○ 畜産

- ・ 震災後8か月が経過し、放射能問題に関するお客様の反応も徐々に薄らぎ、国産牛肉の売上も少しずつ回復傾向にある
- ・ 冷え込みが弱く鍋物商材は不振が続くが、豚肉しゃぶしゃぶ用、鶏肉もも肉等は好調だった
- ・ 加工肉は、ベーコン、焼き豚、魚肉ソーセージ、ハムギフト等が好調だった

○ 惣菜

- ・ かきフライは、鮮魚の生かきの出遅れや高値が影響し好調だった。単品だけでなくカキフライ弁当も同時に売り込んだ
- ・ 冬の味覚を使った弁当を導入して季節感が出せた米飯類が好調だった
- ・ 先月まで好調だった揚げ物、コロッケが不振。和総菜が比較的好調だった

○ 日配・加工食品

- ・10月に引き続き、乳製品、パン、冷凍食品が好調だったが、おでん種、鍋物商材は軒並み不振だった
- ・例年より気温が高いことや野菜の相場安もあり、漬物は低調だった
- ・醤油、つゆ類、味噌、酢、だしの素等の基礎調味料は堅調に推移した
- ・酒はノンアルコール、リキュール、ワインが好調。ボジョレーヌーボーも予約から店売りまで比較的好調だった

○ 「ホット商材・冬型商品」について

- ・平均気温が高く、鍋物商材中心に不調、特に野菜が相場安、鮮魚の生カキ、日配では水物が不振だった
- ・カイロが暖かい割に好調だった

○ 「お歳暮ギフト」について

- ・比較的に配送ギフトよりお持ち帰りギフトが年々好調で、早期割引等の値引き販売が定着したことも要因となった
- ・一般の商品については節約傾向が続いているが、ギフトは早めの購入が目立ち、震災後の心理的影響から、人と人との繋がりを重視した購買意識が働いたと推測される

○ 「クリスマスケーキ・おせち料理の予約状況」について

- ・今年の曜日合わせが家庭で過ごす曜日周りの為か、クリスマスケーキの予約は好調で、高単価商品、キャラクター、有名パティシエ等の予約数を完売した商品もある。また、低価格、小サイズも昨年に引き続き好調に推移している
- ・おせちの予約も好調で、有名ホテル、1人用おせち、キャラクターおせち等中身のボリュームでなく、見た目の良さ、美味しさのある商品に人気がある

以上